

## 活動概要

生活美学研究所の創立は、これまで思弁的で彼岸の存在であった美学という古典的学問分野を、一般の老若男女の身近な日常生活における趣味・嗜好を重視することによって、より現代的な「生活美学」として再創造する目的をもつものです。また新たに始めた「甲子プロジェクト」などを通じて、地域伝統文化の発掘、深化、継承 発信の拠点として、地域の皆さまはじめ、学生、学内外の研究者との研究交流・協働を活性化します。

## 活動内容

活動・研究・委託テーマ	生活美学
対象となる地域・企業等	京阪神間在住の会員・学術研究者との協働・研究交流
活動学生(ゼミ・学年等)	研究員が指導しているゼミ生・院生など
連携時期	平成2年(1990年)～
学外への広報方法	HP、SNS、ニュースレター、駅内広告、車内広告、新聞雑誌、定期刊行物(生活美学研究所紀要・シンポジウム記録集・小研究会報告書)他
連携内容	<p>平成2年10月1日にスタートした本研究所は、同年より翌年平成3年にかけて研究活動の体制を固めました。</p> <p>まず、年間の統一テーマが設定され、これに基づいた年間数回の「定例研究会」が開催されました。統一テーマは漢字の一字を用いるというユニークなものです。</p> <p>この年間の研究に加え、平成3年度からは本研究所の“開設記念”として、「秋季シンポジウム」を開催することとなりました。</p> <p>これは、学内外の研究者および近隣の一般市民、各事業所に呼びかけて催すものです。</p> <p>さらに、同(平成3)年度からは、多くが集い、楽しく美を創造する場を提供するとして「クリエイティブサロン」が発足し、近年は毎年5回開催をしています。</p> <p>このほか、平成6年度には新しく「小研究会」が設けられ、現在、順次研究会が活動を行っています。身体表現を中心とした「生活美学ワークショップ」、新質素的生活方式を探究する「スマートライフフォーラム」、学生のための「美研工房」なども地域住民の重要な研究交流の拠点となっています。</p>
成果	生活美学研究所ホームページ <a href="http://www.mukogawa-u.ac.jp/~seibiken/">http://www.mukogawa-u.ac.jp/~seibiken/</a>

## 研究者・研究グループからの「ひとこと」

「甲子プロジェクト」: 本研究は、ホテルの名称である甲子園の「甲子」と、ホテルのシンボルマークである打出の小槌が、どちらも富と豊穡をもたらす大黒天と繋がっていることに注目します。昭和初期までの大黒天信仰や、阪神電鉄による「甲子園」関連のプロモーションが関係していると考えられます。それらを背景に、地域社会にとっての甲子園ホテルのイメージを5ヵ年計画で明らかにしていきます。地域住民、会員、学生の皆さんとの協働で、エピソードの収集、パンフレットや写真の分析を行います。また、専門家を招き、年2回程度の研究会を開催し、学内外研究者や研究所会員などの研究交流・情報交換をはかります。調査の様子や研究経過などは、随時掲載し更新してまいります。

## 活動内容PR(活動の様子・参加者の声等)

